市指定史跡

赤堀茶臼山古墳（あかぼりちゃうすやまこふん）

指定年月日：平成16年8月10日　所在地：伊勢崎市赤堀今井町二丁目

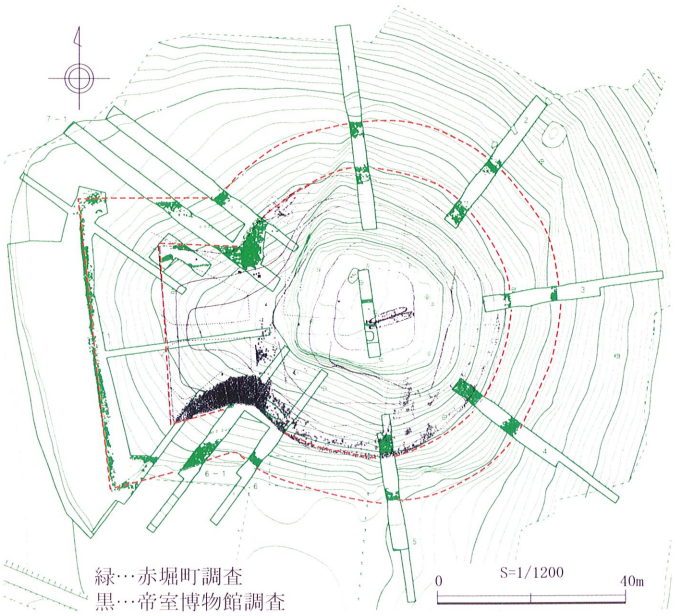
お問い合わせ

伊勢崎市教育委員会　文化財保護課
〒372-0036　伊勢崎市茂呂南町5097-2
電話　0270-75-6672　Fax　0270-75-6673
E-mail：bunkazai@city.isesaki.lg.jp

赤堀茶臼山古墳は伊勢崎市の北部、多田山丘陵上に立地している前方後円墳です。昭和４年に帝室博物館（現東京国立博物館）の後藤守一（ごとうしゅいち）によって発掘調査が行われています。また、平成７～９年にかけて赤堀町教育委員会（現伊勢崎市教育委員会）が保存を目的とした発掘調査を行っています。墳丘長は62.4m、後円部径50.2m、高さ６m、前方部長さ18m、高さ４mです。前方部が短いのが特徴ですが、このような古墳の形は帆立貝形古墳と呼ばれています。

墳丘には割石や河原石を貼付けて葺石を施しています。基底になる根石は他よりも少し大きめの石を使っています。帝室博物館の調査時には大ぶりの石を縦に並べている様子がみられ、葺石の施工単位を知ることができます。周溝は前方部や後円部の南北面で確認できましたが、後円部東面は地形の傾斜がきつくなるためなのか、確認されませんでした。

□…遺跡の範囲



赤堀茶臼山古墳平面図

赤堀茶臼山古墳全景

帝室博物館の調査では、墳丘から家形埴輪8棟をはじめとして、囲形、短甲形、草摺形、蓋形、腰掛形、高坏形、鶏形、朝顔形、円筒の各種埴輪が出土しています。また、主体部は2基発見されましたが、1号木炭槨から六神像鏡、刀、剣、鉾、鉄斧、三角板革綴短甲、三角板革綴衝角付冑、鉄鏃、石製模造品が、2号木炭槨からは内行花文鏡、大刀が出土しました。当時、発掘調査でこれほど多くの家形埴輪が出土したのは珍しく、家形埴輪研究の原点となりました。また、寄棟造の家形埴輪は、古墳の南約3㎞にある釜ノ口遺跡で出土した家形埴輪と非常に似ています。見た目だけでなく、製作時の特徴や表面に残るハケ目の一致から同じ製作者によって作られたものと考えられます。赤堀町の調査では家形、盾形、蓋形、短甲形、草摺形、鶏形、鍔付壺形、朝顔形、円筒の各種埴輪が出土しています。

古墳は、出土した埴輪の特徴から5世紀中ごろに造られたと考えられます。同時期の群馬県でこれほど家形埴輪をはじめとした形象埴輪が出土した古墳は珍しく、それぞれの埴輪の作りも精巧です。当時の日本の中心であったヤマト王権の埴輪生産を担当していた人たちが、赤堀茶臼山古墳の埴輪生産にかかわっていた可能性があります。

帝室博物館の調査での出土品は東京国立博物館に、赤堀町調査での出土品は伊勢崎市教育委員会に保管されています。

帝室博物館調査で出土した埴輪

腰掛形埴輪

高坏形埴輪

蓋形埴輪

家形埴輪

釜ノ口遺跡出土の家形埴輪

実測図は『上野国佐波郡赤堀村今井茶臼山古墳』（1933）から転載